

事業番号	15 04 14	事業改善シート (28年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	特別支援学校就労支援総合事業費			担当課	部局	教育委員会事務局	
					課・局・室	特別支援教育課	
総合5か年計画	プロジェクト	5-4-3 雇用・社会参加促進、8-1-4 教育再生			E-mail	tokubetsu-shien@pref.nagano.lg.jp	
	施策の総合的展開	7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実 5 すべての子どもの学びを保障する支援			実施期間	不明 ~	
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針						
	施策展開						

1 事業の概要

目指す姿	特別支援学校生徒の地域での社会自立や職業自立を進めるために、社会生活や職業生活に必要な能力や態度を育てるとともに、将来の就労につながる現場実習先事業所数の拡大、職場体験実習の推進を図りながら、適切な進路指導を目指す。 成果目標: 高等部卒業生総数の内、一般企業等で実習を行った生徒の割合 33.4%(H26)→40.3%(H29) 一般企業等産業現場における実習を行った生徒が実際に一般就労した割合 60.3%(H26)→65.0%(H29)	
現状 (予算編成時)	○産業現場での実習人数は増加しているが、生徒個々の「働く力」が企業等で十分に生かされておらず、高等部生徒の就職率が全国平均を下回っている。 ・個々の生徒の「働く力」が企業等に対して十分に伝わっていない。	
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】 特別支援学校高等部学習指導要領
	県民との協働による実施: 実施は困難	

成果目標・事業内容	① 成果目標(H28)					
	高等部卒業生総数の内、一般企業等で実習を行った生徒の割合 38.7% 産業現場で実習を行った生徒が一般就労した割合 62.3%					
	② 事業内容 (単位:千円)					
	項目	実施方法	H28実施内容	H28 (当初)	H28 (決算)	H29 (当初)
	関係機関と連携した実習先の拡充と新たな雇用の場の創出	直接	ハローワーク・求人開拓員・就業支援ワーカーとの連携	0	0	0
企業への理解啓発の推進	直接	・県経営者協会、中小企業団体中央会等との連携 ・長野労働局・職業安定所と連携した就労セミナーの開催	0	0	0	
産業現場等における実習事業	直接	・民間企業等の協力を得て、現場実習の実施 高等部生徒の現場実習(1年後期、2・3年前期・後期)	3,402	3,191	3,380	
長野県特別支援学校技能検定の実施	直接				2,514	
就労コーディネーターの配置	直接	県内4地区に配置し実習及び就労の企業開拓及び企業対象の学校見学会の企画運営	9,696	9,262	9,979	
		合計	13,098	12,453	15,873	

事業コスト	区分(単位:千円)				成果目標の達成状況							
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29 目標
		当初予算	14,806	13,098	15,873				目標	成果	達成状況	
		補正予算										
		合計(A)	14,806	13,098	15,873				高等部卒業生総数の内、一般企業等で実習を行った生徒の割合	33.4%	31.9%	
	Aの財源	一般財源	14,768	13,059	15,841	一般企業で実習をした生徒が実際に就労した割合	60.3%	62.1%	62.3%	77.5%	達成	65.0%
		県債										
		国庫支出金										
	その他	38	39	32								
	決算額(B)	13,456	12,453									
概算人件費	職員数(人)	0.30	0.30	0.30								
	概算人件費(C)	2,483	2,374	2,374								
概算事業費(B(A)+C)	15,939	14,827	18,247									

目標に対する成果の状況	高等部の生徒が、企業での実習を行うための準備が不足していることが、実習率を大きく増加させない原因だと考えられる。実習の準備ができていない生徒にとっては、普段の姿をよく知る就労コーディネーターが実習先を選定し、実習中も企業と生徒の間に入り、調整をしたため、就職率は高いものになった。反面、企業での実習をしないまま卒業する生徒に対し、社会に出るためにどんな準備をしていく必要があるのか考え、企業等での実習を経験することで、より主体的に進路選択ができるようになる。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 高等部の学習で特別支援学校技能検定の取組みを導入すると共に、社会に出て自立していく生徒たちにとって、どんな学習が必要なのかを検討し、各校での指導の改善を図る。企業での実習を希望する生徒に、必要な力をつけ企業実習を行う生徒数の増加を図る。
--------------------	---